姉妹村

美浦村とのホット情報交換（その12）

美浦村は古くから 霞ヶ浦とともに生きてきた②

前月に引き続き、美浦村と深い関わりを持つ「霞ヶ浦」についてご紹介します。

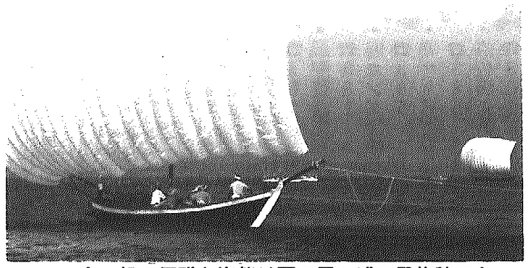
ワカサギ、シラウオ……みんな湖からの贈り物

ワカサギ、シラウオ、コイ、ハゼ、エビなどなど、古くから霞ヶ浦は豊かな漁場でした。平均水深四メートル、最大水深七・三メートル。その大きさに比べて浅いことが漁業の盛んな理由の一つといわれています。

数ある漁法の中でも、最も有名なものが帆曳船によるワカサギ漁でしょう。シラウオやワカサギの流し網漁用に明治時代に考案された漁法で、最盛期には五百隻もの帆曳船が湖上に浮かんでいたといわれます。白い帆の優雅な姿態は夏の霞ヶ浦の風物詩でもありましたが、その帆曳船も昭和四十年代に姿を消すことになりました。

明治から大正時代にかけ、美浦にも七つの漁業協同組合が成立し、それぞれにワカサギ漁やシラウオ漁が盛んでした。しかし、現在では汚濁や淡水化による漁種の減少、そして後継者不足など、漁業を取り巻く環境は年々厳しさを増しており、霞ヶ浦の水質浄化や漁業そのものの質的転換が求められています。

一方、このような中においても、水産加工品は村の特産品として大変な人気を誇っています。

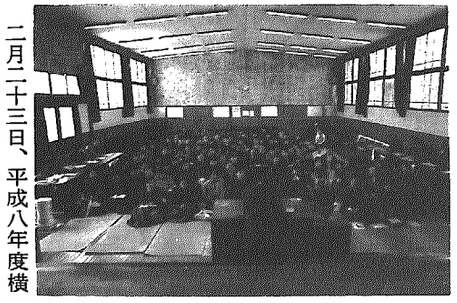


白い帆の優雅な姿態は夏の霞ヶ浦の風物詩でもありました

美浦村の佃煮は『鮮度と風味が自慢』。目の前の霞ヶ浦で水揚げされたワカサギ、エビなどが、村内にある工場でその日のうちに加工されているからです。しかも、明治以来の伝統ある製法による昔ながらの手づくりの味わいが特徴・豊かな風土が隠し味！。横越のみなさんも、美浦にお越しの際は、いかがでしょうか。

次回は、「水の大切さを実感できる」行政の取組や地域の活動についてご紹介します。

平成八年度 町連合婦人会総会開催



二月二十三日、平成八年度横越町連合婦人会（佐久間順会長）、交通安全母の会、交通安全協会婦人部の総会が中央公民館で開催され、浅見町長、新潟南地区交通安全協会事務局長などの来賓が出席のもと、会員百五十名あまりが参加しました。

佐久間会長からは、婦人会活動や交通安全母親全国大会に出席した報告などがあり、浅見町長から「二十一世紀をめざした新しい町づくり」と題した記念講演が行われ、参加者は熱心に耳を傾けていました。

なお、総会の席上、次のとおり連合婦人会永年勤続役員が表彰されました。

○15年表彰

市村ヨイ（横越下）
五十嵐スミイ（横越下）
茅原フサイ（横越下）
渡辺ふめ（川根谷内）
長谷部秀子（川根谷内）
石川孝子（川根谷内）

○10年表彰

原ミヨ（横越下）
佐藤洋子（木津上）
佐藤静子（木津上）
宮嶋ミツ（小杉上）
媚山ハナ（小杉中）
小出チヨミ（小杉中）
坂井博美（二本木中）
遠藤ヨシノ（二本木中）

平成9年地価公示が発表されました

平成九年三月二十五日に国土庁から、平成八年の地価公示が発表されました。地価公示は、都市計画区域内の各地域で標準的な使われ方をしている土地―これを標準地といいます―を選んで、その適正な土地価格を公表し、土地を売買する際の目安にしていただくものです。また、地価公示価格は、不動産鑑定士が鑑定評価を行う場合や、国、地方公共団体等が公共用地等を買う場合の基準とされるほか、都道府県知事が、国土利用計画法に基づいて土地売買の届出があった土地の取引価格の審査をするときの基準ともされ、適正な地価の形成に大きな役割を果しています。

地価公示の関係書面は、役場企画観光課で閲覧しています。

ふる里物語 町史編さんだより㉛

村の民主化 ―農地改革―

江戸時代に発達した日本の地主制度は、明治から大正にかけて、全盛期を迎えました。

昭和二十年十二月、連合国総指令部（GHQ）は農地解放の指令を発し、「日本の農民は四分の三以上が小作か自小作であり、収穫の半分かそれ以上の小作料を支払っている」と述べ、財閥と地主制とが軍国主義の基礎となったという考えに基づいて、経済の民主化を図った。

昭和二十二年二月から第一次農地改革が、更に徹底せよと第二次農地改革が開始され、昭和二十五年に完了しました。

横越についてみると、小作地は八二〇町歩あり、農家戸数八七六戸のうち、自作はわずか二一八戸で、大半が封建的地主制度下の苦難にあえいでいました。

〈改革後の自作地〉

旧自作地―田 三七五町歩
　　畑 三一六町歩
　　計 六九一町歩

旧小作地―田 四九五町歩
　　畑 三二五町歩
　　計 八二〇町歩

土地の買収、売り渡しの交渉は農地委員会があたり、小作五、地主三、自作二の割合で選出するものとされ、横越村の委員は十五名でした。

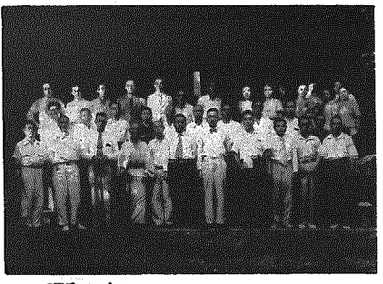
委員の選出については、昭和二十一年十二月二十三日、横越村役場、沢海・木津・小杉国民学校の四ヵ所で地主層のみ選挙による投票が行われ、全村組合と実行組合の調整を経た小作、自作層は定数で無投票でした。

選出された委員は、次の人々でした（『藤田健太翁自伝』より抜粋）。

〈横　越〉◎藤田健太、晒名力蔵、中村才次、市村俊蔵
〈沢　海〉目黒啓一、田中敬吉、渋谷健作
〈木　津〉石井石蔵、酒井平弥、石井東吉
〈二本木〉藤崎祐吉
〈小　杉〉渡辺栄太郎、石川五三郎、長谷川長太
〈藤　山〉田村半次郎
（敬称略、◎は委員長）

これら農地委員の人々は、全く未知の仕事に全力を集中して村の民主化に尽くされたわけで、そのご苦労は大変なものであったでしょう。

（近現代部会　渡辺健策）



昭和25年
広川農相（前列中央）の横越訪問

四月十一日まで実施 二十一点の入賞作品が町民ホールを彩る

「第七回景観再発見写真コンテスト」の入賞作品二十一点を役場町民ホールに展示しています。

転入・転出と異動される方が多いこの時期を利用して、広く町内外の方々に横越町の景観を知っていただく目的で実施しています。

ぜひ、期間中に一度役場に足をお運びになり、横越町を再発見してみてはいかがでしょうか。

耳よりな情報
～新潟都市圏情報ネットワーク～

〈新　潟　市〉

◎97新潟とやの湖桜まつり

期間中はボンボリ点灯を行い夜桜見物もできます。メイン行事日にはとやの湖一周ワクワクウォークなどのイベントが盛り沢山です。

▶開催期間　4月10日（木）～30日（水）
　・メイン行事日　4月20日（日）
▶問い合わせ　新潟市駅南まつり協賛会
　☎245－3020

町と観光協会との共催により、三月十日より四月十一日まで

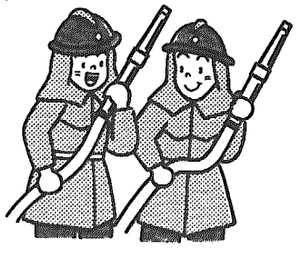
〈亀　田　町〉

◎第17回日本肢体不自由者卓球選手権

全国各地から選手がアスパークに集合します。すばらしいプレーに大きな拍手と声援をお送り下さい。

▶開催日　4月19日（土）　午後1時～
　　4月20日（日）　午前9時～
▶会　場　アスパーク亀田・亀田町総合体育館
▶問い合わせ　アスパーク亀田・亀田町総合体育館
　☎381－1222

災害に備えて 火の用心
～春の火災予防運動～



今年も四月一日から七日までの一週間、春の火災予防運動が行われています。

暖房器具をつけているのを、うっかり忘れてしまったということはありませんか。

寒気が緩むと同時に、火に対する注意が緩み始めるのもこの時期です。また、四月は空気が乾燥し、火災の発生しやすい気候となる時期です。

今一度、家族全員で「火の用心」について話し合って下さい。

今年の全国火災予防運動の統一防火標語は「便利さに　慣れて忘れる　火のこわさ」です。